

マーシュジャパン

# 最新の福利厚生制度対策セミナー 求められる戦略的制度の構築

マーシュジャパンは5月18日、東京オペラシティ(東京都新宿区)で「最新の福利厚生制度対策セミナー」を開催した。講師に、山梨大学生命環境学部地球社会システム学科の西久保浩二教授とテイライト(株)の出口哲也社長を迎え、戦略的福利厚生制度の考え方や、働きがいのある職場づくりについて解説した。当日は企業や代理店などから80人以上が参加し、福利厚生制度を使って従業員の満足度を向上させる方法などに熱心に耳を傾けた。



出口氏



西久保氏



中西氏



清岡氏

講演に先立ってあいさつをしたマーシュジャパンの中西社長は、今回のセミナー開催の背景として、2000年以降、同社が福利厚生制度の構築・運用支援に注力していることを紹介。福利厚生制度のコンサルティングから保険の設計、運用、コールセンター運用、人づくりを目指すための戦略的福利厚生制度「人材活用」と題して講演した。最初に、近代で最初の福利厚生制度を採用した組織として富岡製糸場を紹介した同氏は、当時としては珍しい風呂付きの宿舎を提供し、食事や薬も無償で提供した点に注目されているが、本日の参加者の多さに働き方への関心の高さを実感した。一大国家プロジェクトの背景には、安心して働ける職場環境へのこだわりがあったとした。

「超える企業に提供している」と述べた上で、「昨今、働き方改革が注目されているが、本日の参加者の多さに働き方への関心の高さを実感した。一大国家プロジェクトの背景には、安心して働ける職場環境へのこだわりがあったとした。」



満席となった会場

この他、米国のホームセンター「ホームデポ」の健康支援制度による顧客サービス品質の向上施策についても紹介。企業が従業員の健康促進をサポートすることにより健康的に長く働ける環境を創出し、その結果としてサービス品質の向上や、企業戦略の成功につながっていることを解説した。

また、今後の日本企業が考えるべき福利厚生制度の在り方について、養老院や住宅などの「ハコモノ」から、介護や育児、健康支援といった環境変化に適用するために、福利厚生制度ならではの独自の機能をいかに引き出し、強い人的資源管理システムを構築できるかが問われる」とした。

第2部では出口社長が経営者の視点からLTD(団体長期所得補償)制度導入の背景や、同氏は時代と共に変化している価値観と向き合い、企業文化を社員で育て、経営の中心に捉える考え方を導入。動脈硬化で後遺障害が残った社員への対応を考えた時に、本場に大切なこと・求められることをしっかりと導入するべきとの考えからLTD制度の導入に踏み切ったと紹介した。

第3部では西久保教授と出口社長の他、保険総研の清岡義教社長らをパネリストに迎えてパネルディスカッションを行い、活発な意見交換が行われた。

最後に、同セミナーを企画した、マーシュジャパンSMEチームを代表して櫻井庸佐チームリーダーが、同チームは中小企業を対象に、全国の保険代理店と提携するパートナー代理店制度の下で、洗練された保険サービスを提供していることを紹介し、締めくくった。

## LTD制度の活用も提案

「超える企業に提供している」と述べた上で、「昨今、働き方改革が注目されているが、本日の参加者の多さに働き方への関心の高さを実感した。一大国家プロジェクトの背景には、安心して働ける職場環境へのこだわりがあったとした。」

「超える企業に提供している」と述べた上で、「昨今、働き方改革が注目されているが、本日の参加者の多さに働き方への関心の高さを実感した。一大国家プロジェクトの背景には、安心して働ける職場環境へのこだわりがあったとした。」

「超える企業に提供している」と述べた上で、「昨今、働き方改革が注目されているが、本日の参加者の多さに働き方への関心の高さを実感した。一大国家プロジェクトの背景には、安心して働ける職場環境へのこだわりがあったとした。」

(注) Great Place to Work? Institute Japanが運営する働きがいのある会社ランキング。